

進路通信

校訓：磨きあえ心 学びあえ知 鍛えあえ体



令和6年3月8日 第41号
佐世保市立鹿町中学校

公立高校後期入試終了！ ～次は、卒業式へ向けて～

3月6日（水）、7日（木）の2日間実施された公立後期入試が終わりました。受検者全員が無事に2日間の日程を終えることができ、15日（金）の合格発表を待つだけとなりました。今日から卒業式の練習に入り、9か年の義務教育を終える日が近づいてきました。小さいころからずっと一緒に成長してきた仲間たちと離れ、それぞれが自分の道に向かって新たな一歩を踏み出そうとしています。保護者の皆様は、3年前真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで入学したお子様の姿を思い起こされていることと思います。しかし、この時期忘れてはいけないことがあります。東日本大震災です。

間もなく、大震災から13年になります。卒業式を間近に控えた3月11日に、それは起きました。当時、宮城県気仙沼市立階上（はしかみ）中学校の卒業式で卒業生代表として読んだ梶原裕太さんの答辞を紹介します。

卒業生代表の言葉

本日は未曾有の大震災の傷も言えないさなか、私たちのために卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を、57名揃って旅立つはずでした。

前日の11日。一足早く渡されたおもいでがたくさん詰まったアルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに・・・。

階上（はしかみ）中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守っててください。必ずよき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成23年3月22日

第64回卒業生代表 梶原 裕太